

# 2025年3月期 第3四半期 決算概要

2025年2月13日

テルモ株式会社  
Chief Financial Officer  
萩本 仁



CFOの萩本でございます。2025年3月期 第3四半期の決算概要を説明いたします。

## おことわり

テルモの開示資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。様々な要因により、実際の業績等が変動する可能性があることをご承知おきください。実際の業績に影響を与えうる重要な要素には、テルモの事業領域を取り巻く経済情勢、為替レートの変動、競争状況等があります。また、この資料に含まれている製品（開発中のものを含む）に関する情報は、宣伝広告、医学的アドバイスを目的としているものではありません。

## ■ ハイライト

### ■ 売上収益

- 四半期、Q3累計ともに過去最高
- 北米が牽引しグローバルで需要拡大が継続、為替も寄与し全社で+13%の伸長

### ■ 利益

- 営業利益・調整後営業利益・当期利益の全てにおいて、四半期、Q3累計ともに過去最高
- 価格政策と収益改善策の順調な進捗により売上成長を大幅に上回る伸長

本決算のハイライトです。

第3四半期は、売上収益、営業利益、調整後営業利益、当期利益の全てにおいて、四半期、Q3累計ともに過去最高を達成することができました。

売上収益は、北米が牽引してグローバルで需要の拡大が継続、為替も寄与して前年比較で13%の成長となりました。

利益は、価格政策、また継続して取り組んでおります収益改善策の効果もあり、売上成長を上回る伸長となりました。

次のスライドをお願いします。

## P&L, FCF実績

- 売上収益：グローバルで需要が拡大。TIS、血液センター向けビジネスが牽引
- 営業利益：売上増、価格政策、収益改善策の順調な進捗による利益率の改善

金額 (億円)	FY23 Q3累計	FY24 Q3累計	増減率	為替除く増減率	FY23 Q3	FY24 Q3	増減率
売上収益	6,830	7,722	13%	8%	2,391	2,636	10%
売上総利益 (%)	3,548 (52.0%)	4,221 (54.7%)	19%	12%	1,266 (52.9%)	1,451 (55.1%)	15%
一般管理費 (%)	2,022 (29.6%)	2,257 (29.2%)	12%	7%	707 (29.6%)	777 (29.5%)	10%
研究開発費 (%)	491 (7.2%)	554 (7.2%)	13%	9%	173 (7.3%)	187 (7.1%)	8%
その他収益費用	20	-76	-	-	5	-30	-
営業利益 (%)	1,055 (15.5%)	1,335 (17.3%)	27%	14%	390 (16.3%)	458 (17.4%)	17%
調整後営業利益 (%)	1,197 (17.5%)	1,593 (20.6%)	33%	22%	441 (18.5%)	553 (21.0%)	25%
税引前利益 (%)	1,057 (15.5%)	1,318 (17.1%)	25%		393 (16.4%)	467 (17.7%)	19%
当期利益 (%)	799 (11.7%)	986 (12.8%)	23%		298 (12.5%)	354 (13.4%)	19%
フリー・キャッシュ・フロー	381	939	146%				
期中平均レート(USD/EUR)	143円/155円	153円/165円			148円/159円	152円/163円	

©TERUMO CORPORATION

4

TERUMO

PL実績です。

売上収益は、Q3累計で7,722億円と過去最高となりました。総じて良好な事業環境での需要拡大の継続に加え、為替も寄与しました。

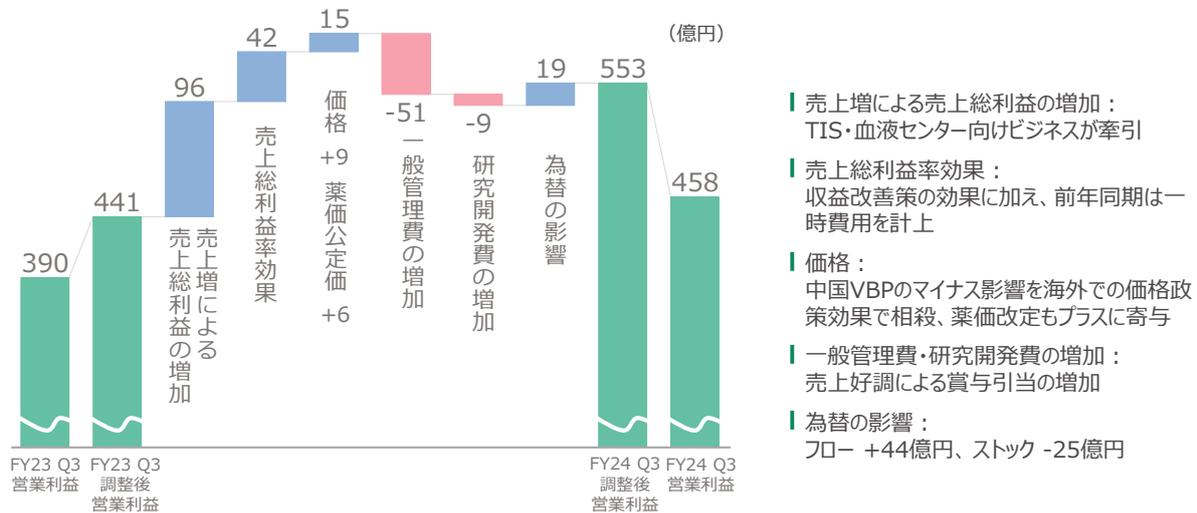
営業利益・調整後営業利益も、売上成長を大幅に上回る伸長を達成し、それぞれ過去最高の1,335億円、1,593億円となりました。価格政策と収益改善策の順調な進捗により利益率の改善を実現したことによるものです。

一方で、原材料価格の高騰や米国の関税政策の動向などマクロ環境の変化については、引き続き注視していきます。

また、第3四半期は30億円の一時費用を計上しております。これは今年度より進めておりますポートフォリオの見直しに伴う費用を含んでおりますが、事業体制の見直し、最適化に向けての取り組みは今後も継続して取り組んでまいります。

次のスライドをお願いします。

## 営業利益増減分析 (Q3) : 需要拡大の継続による売上増加が貢献



- 売上増による売上総利益の増加：  
TIS・血液センター向けビジネスが牽引
- 売上総利益率効果：  
収益改善策の効果に加え、前年同期は一時費用を計上
- 価格：  
中国VBPのマイナス影響を海外での価格政策効果で相殺、薬価改定もプラスに寄与
- 一般管理費・研究開発費の増加：  
売上好調による賞与引当の増加
- 為替の影響：  
フロー +44億円、ストック -25億円

第3四半期における、前年同期比の利益増減分析です。

まず「売上増による売上総利益の増加」は、TISと血液センター向けビジネスが牽引しました。

「売上総利益率効果」は、収益改善策の効果に加え、前年度は一時費用の計上があったことも寄与しました。

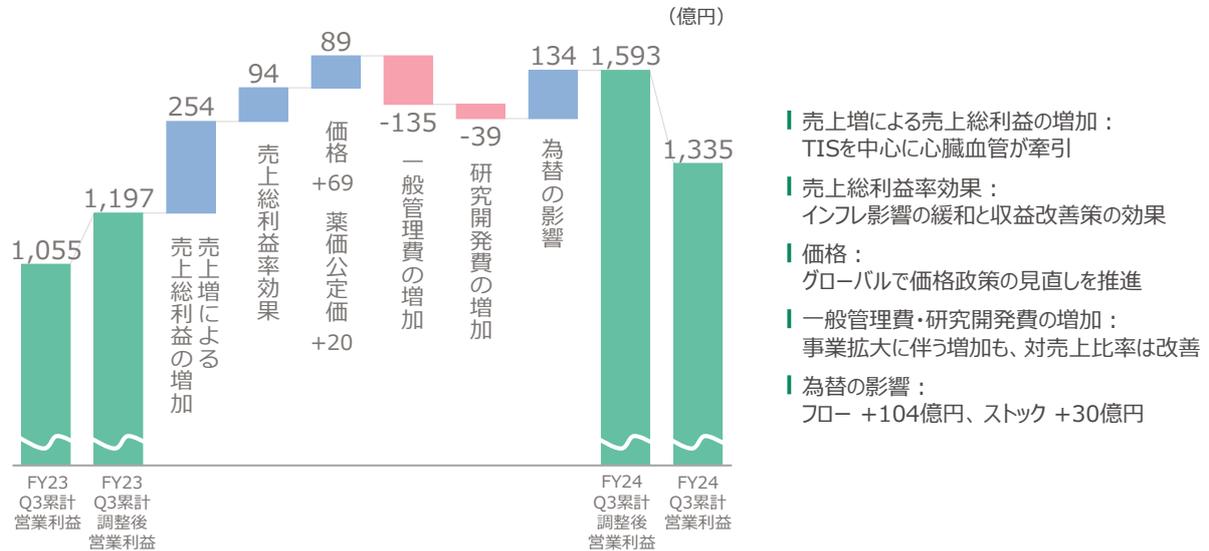
「価格」では、中国VBPによる価格下落を海外での値上げ効果で相殺しました。また今年度の薬価改定もプラスに効いています。

「一般管理費および研究開発費の増加」は、売上が計画を上回ったことで追加計上となった賞与引当により増加しています。

「為替の影響」は、フローに+44億円、ストックに▲25億円でした。

次のスライドをお願いします。

## 営業利益増減分析 (Q3累計) : 好調な売上と価格政策が貢献



©TERUMO CORPORATION

6

TERUMO

続きましてQ3累計の利益増減分析です。

全体的には、需要拡大の継続による売上の増加が大きく貢献しています。

傾向としては先ほどQ3の要因としてご説明した内容とほぼ同様ですが、売上においてはTISを中心に心臓血管カンパニーの貢献が大きくなっております。

また一般管理費は、事業拡大に伴い増加していますが、Q3累計としては計画通りに推移し、対売上比率も改善しました。

「為替の影響」の内訳は、フローに+104億円、ストックに+30億円でした。

次のスライドをお願いします。

## 地域別売上収益：米州・欧州が牽引し、グローバルで順調に進捗

(C&V: 心臓血管、TMCS: メディカルケアソリューションズ、TBCT: 血液・細胞テクノロジー  
TIS: 血管内治療システム、ニューロ: ニューロバスキュラー、CV: カーディオバスキュラー、HCS: ホスピタルケアソリューション、LCS: ライフケアソリューション、PS: ファーマシューティカルソリューション)

FY24 Q3累計 地域構成比	売上収益 (億円)		FY24 Q3累計 増減率	コメント	
	Q3累計	Q3			
38%	米州	2,124 2,382 <b>2,906</b>	743 845 <b>1,000</b>	22% (16%)	全カンパニーが為替影響を除いても二桁伸長。C&VではTISとニューロが、TBCTでは血液センター向けビジネスが牽引
22%	日本	1,570 1,587 <b>1,649</b>	558 576 <b>580</b>	4%	TMCSが牽引して伸長。HCSは価格政策が貢献、PSも概ね計画通り進捗
21%	欧州	1,186 1,390 <b>1,593</b>	414 494 <b>553</b>	15% (8%)	C&Vでは全事業で需要拡大が継続。TMCSではPSが、TBCTではアフレシス治療が好調
8%	中国	566 601 <b>665</b>	183 190 <b>219</b>	11% (4%)	C&VではTISでVBPの影響により価格が下落する一方、物量増加で伸長。ニューロでは大幅伸長が継続
11%	アジア他	733 870 <b>910</b>	249 285 <b>283</b>	5% (0%)	FY23に好調であった血液センター向けビジネスは減収も、C&Vではニューロが、TMCSではPSが為替影響を除いても二桁伸長し牽引

©TERUMO CORPORATION

7



地域別売上収益です。

米州・欧州を中心に、全地域で順調に進捗しています。

米州では、全カンパニーが現地通貨ベースでも二桁伸長となり、全地域の中で最大の伸び率となりました。心臓血管は、前年同期に一部のアクセス製品で供給問題があったTISの回復と、ニューロの売上が好調でした。血液・細胞テクノロジーでは、血液センター向けビジネスに含まれている血漿イノベーション事業が成長を牽引しました。

日本は、メディカルケアソリューションズが牽引して伸長しました。これは、ホスピタルケアにおける価格政策の効果が大きく寄与したものです。

欧州は、心臓血管の全事業で需要拡大が継続し好調な売上となりました。TMCSではファーマシューティカルが、そして血液・細胞テクノロジーではアフレシス治療が成長を牽引しました。

中国では、TISでVBPによる価格下落を物量増加で跳ね返しました。ニューロも引き続き大幅伸長となりました。

アジアや中東などの新興国では、前年同期に好調であった血液センター向けビジネスは減収となりましたが、心臓血管はニューロが、メディカルケアソリューションズではファーマシューティカルが現地通貨ベースでも二桁伸長し牽引しました。

次のスライドをお願いします。

## C&V：北米が牽引しグローバルで売上・利益ともに計画を上回る

(C&V: 心臓血管、TIS: 血管内治療システム、ニューロ: ニューロバスキュラー、CV: カーディオバスキュラー)

(億円)

	Q3累計			Q3			コメント	Q3累計 売上増減
	( )内は為替影響除く							
売上収益	3,589	4,077	4,641	1,235	1,420	1,579	TIS : 中国ではVBPの価格影響を物量増加で跳ね返す。北米の一部アクセス製品における供給問題の解消もあり、グローバルで二桁伸長	+352
			14% (8%)			11%	ニューロ : グローバルで好調な需要が継続、北米と中国が成長を牽引	+125
調整後 営業利益	836	920	1,179	307	344	410	CV : 北米・欧州が牽引し好調な売上	+31
			28% (15%)			19%	血管 : 北米と欧州が牽引。ハイブリッド製品が順調に展開	+56
利益率	23%	23%	25%	25%	24%	26%	利益 : 増収と収益改善策の効果に加え、為替も寄与し大幅に増益	
	FY22	FY23	FY24	FY22	FY23	FY24		

©TERUMO CORPORATION

8

TERUMO

カンパニー別に業績をご説明します。まず、心臓血管カンパニーです。

売上収益は、現地通貨ベースで+8%伸長と、北米を中心にグローバルで好調でした。

事業別伸長率では、ニューロと血管が牽引しました。

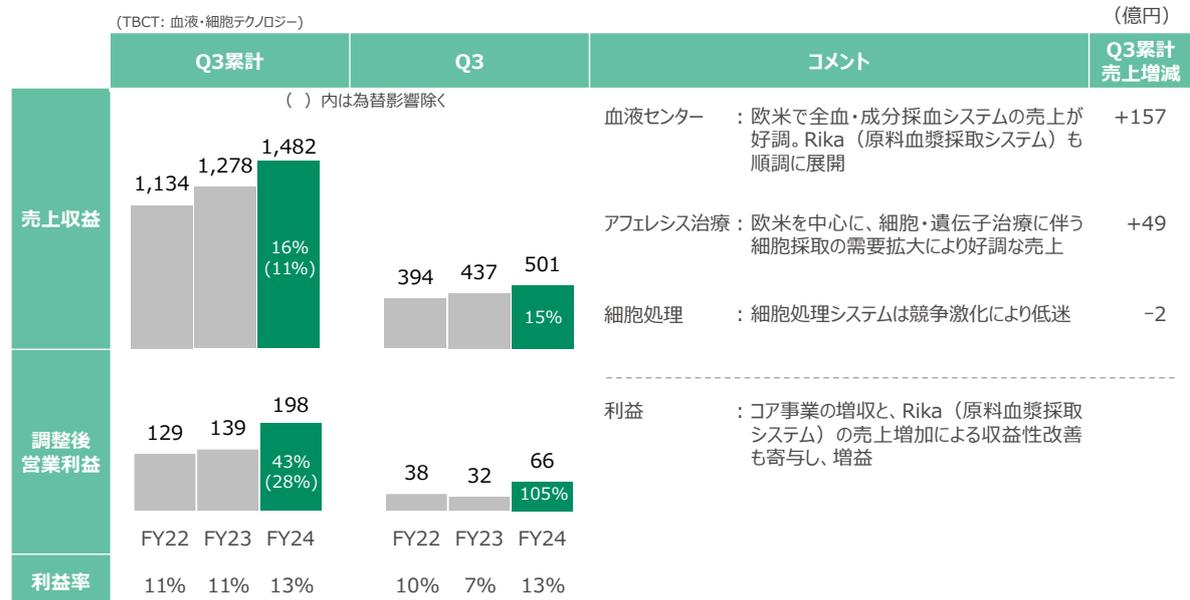
ニューロは、グローバルで好調な需要拡大が継続し、なかでも北米と中国が成長を牽引しました。

利益は、増収と収益改善策の効果に加え、為替も寄与して、大幅に増益となりました。

次のスライドをお願いします。



## TBCT：血漿イノベーション事業の展開加速も寄与し増収増益



©TERUMO CORPORATION

10

TERUMO

最後に、TBCT、血液・細胞テクノロジーです。

売上収益は、血液センター向けビジネスに含まれる血漿イノベーション事業が牽引しました。

今年1月末時点で約7割の血漿採取センターへRikaの導入が完了しており、順調に展開しています。

血液センター向けのコア事業においても、欧米で全血採血システムおよび成分採血関連製品の売上が好調でした。

アフェシス治療も、北米・欧州を中心として細胞・遺伝子治療に伴う細胞採取の需要が拡大しており、順調な伸長となりました。

利益は、コア事業の増収と、Rikaの展開に伴う収益性改善も寄与し、増益となりました。

ただし、前年度Q3に新生産ラインの立ち上げに伴う一部設備の減損を計上したことも、今年度の大幅増益に寄与しています。

以上で決算概要の説明を終わります。

ご清聴ありがとうございました。

## 参考資料

## P&L（四半期推移）

(億円)

	FY23 Q3 (10-12月)	Q4 (1-3月)	FY24 Q1 (4-6月)	Q2 (7-9月)	Q3 (10-12月)
売上収益	2,391	2,389	2,582	2,505	2,636
売上総利益	1,266 (52.9%)	1,243 (52.0%)	1,376 (53.3%)	1,395 (55.7%)	1,451 (55.1%)
一般管理費	707 (29.6%)	737 (30.9%)	748 (29.0%)	732 (29.2%)	777 (29.5%)
研究開発費	173 (7.3%)	199 (8.3%)	174 (6.7%)	194 (7.7%)	187 (7.1%)
その他収益費用	5	39	-8	-38	-30
営業利益	390 (16.3%)	346 (14.5%)	446 (17.3%)	431 (17.2%)	458 (17.4%)
調整後営業利益	441 (18.5%)	371 (15.5%)	511 (19.8%)	529 (21.1%)	553 (21.0%)
四半期 平均レート	USD 148円	149円	156円	149円	152円
	EUR 159円	161円	168円	164円	163円

## 販管費（四半期推移）

(億円)

	FY23 Q3 (10-12月)	Q4 (1-3月)	FY24 Q1 (4-6月)	Q2 (7-9月)	Q3 (10-12月)	
人件費	371	373	398	384	406	
販促費	54	54	52	47	54	
物流費	49	51	51	59	56	
償却費	65	66	70	68	70	
その他	168	192	178	175	190	
一般管理費 (売上比率)	707 (29.6%)	737 (30.9%)	748 (29.0%)	732 (29.2%)	777 (29.5%)	
研究開発費 (売上比率)	173 (7.3%)	199 (8.3%)	174 (6.7%)	194 (7.7%)	187 (7.1%)	
合計 (売上比率)	881 (36.8%)	937 (39.2%)	922 (35.7%)	926 (37.0%)	963 (36.6%)	
四半期 平均レート	USD EUR	148円 159円	149円 161円	156円 168円	149円 164円	152円 163円

## 販管費（前年同期比）

（億円）

	FY23 Q3累計	FY24 Q3累計	増減	増減率	為替除く 増減率	FY23 Q3	FY24 Q3	増減	増減率
人件費	1,056	1,188	132	12%	7%	371	406	35	9%
販促費	147	153	6	4%	0%	54	54	0	0%
物流費	142	166	23	17%	12%	49	56	8	16%
償却費	184	207	24	13%	8%	65	70	5	8%
その他	493	543	50	10%	6%	168	190	22	13%
一般管理費	2,022	2,257	235	12%	7%	707	777	70	10%
(売上比率)	(29.6%)	(29.2%)				(29.6%)	(29.5%)		
研究開発費	491	554	63	13%	9%	173	187	13	8%
(売上比率)	(7.2%)	(7.2%)				(7.3%)	(7.1%)		
合計	2,513	2,811	298	12%	7%	881	963	83	9%
(売上比率)	(36.8%)	(36.4%)				(36.8%)	(36.6%)		

## 調整後営業利益：調整額

(億円)

	FY23 Q3累計	FY24 Q3累計	FY23 Q3	FY24 Q3
調整後営業利益	1,197	1,593	441	553
調整① 買収無形資産の償却費	-147	-161	-50	-52
調整② 一時的な損益	5	-97	-1	-43
営業利益	1,055	1,335	390	458

※ 調整項目に含まれる費用・収益の例

- 買収関連費用
- 訴訟関連損益
- 減損損失
- 事業再編費用
- 損害保険収入
- 災害による損失
- その他一時的な損益

調整②「一時的な損益」の内訳	FY23 Q3累計	FY24 Q3累計
事業再編費用	-11	-79
オリンパステルモバイオマテリアル株式売却益	13	-
TBCT減損損失	-	-25
TBCT土地売却益	-	14
その他	3	-7

## 設備投資、償却費、研究開発費

(億円)

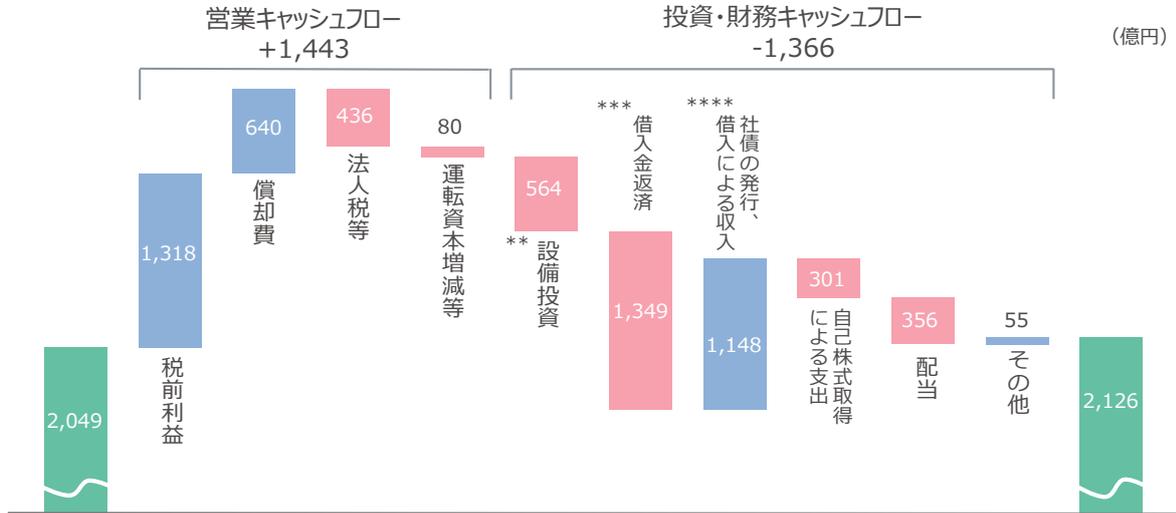
	FY21	FY22	FY23	FY24Q3累計	FY24予想
設備投資	692	758	784	564	930
償却費	532	635	702	585	770
買収無形償却費	161	188	200	157	200
それ以外	371	447	502	428	570

設備投資は、建設仮勘定計上ベース・リース含まず、償却費はリース償却（IFRS16）含まず

■ 24年度Q3実績（564億円）：CDMO（開発製造受託）等生産体制強化のため甲府工場内の新棟建設  
他、TIS、血液・細胞テクノロジーの増産設備、原料血漿採取関連、R&D投資、  
基幹システム（SAP）等のIT投資を継続

	FY21	FY22	FY23	FY24Q3累計	FY24予想
研究開発費	518	616	691	554	715

# キャッシュフロー（Q3累計）

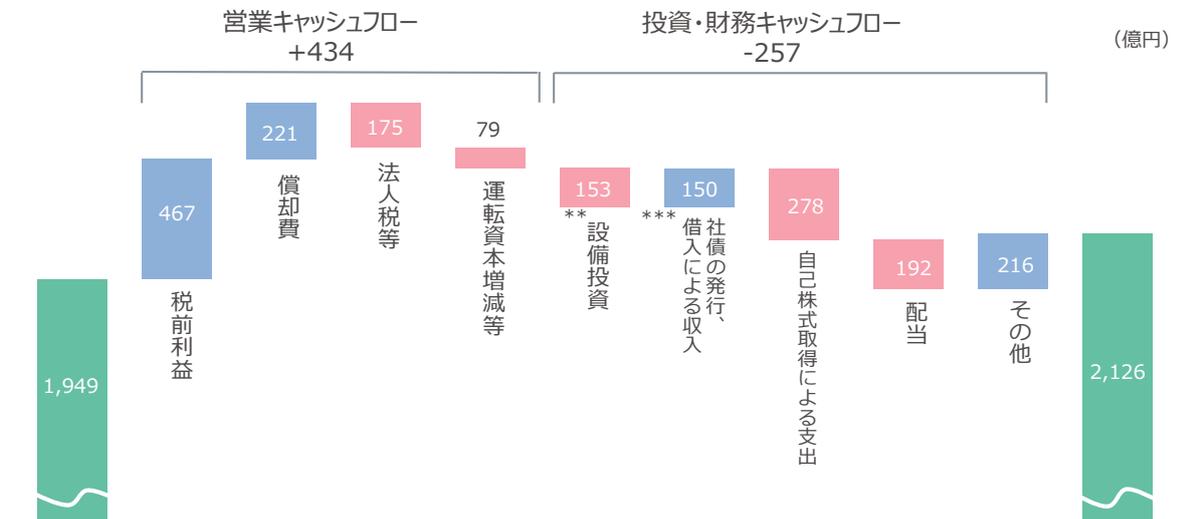


\* FY23末  
現預金残高

\* 期末現預金残高はB/Sの「現金及び現金同等物」と整合  
 \*\* 建設仮勘定計上ベース  
 \*\*\* デリバティブ決済考慮後  
 \*\*\*\* 「短期借入金及びコマース・ペーパーの増減額」を含む

FY24Q3末  
現預金残高

# キャッシュフロー (Q3)

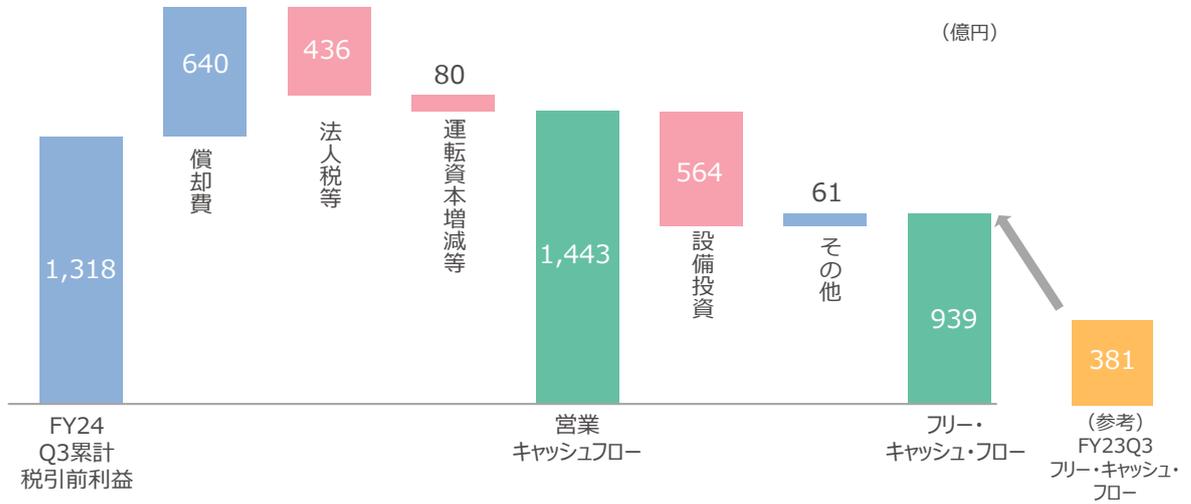


\* FY24Q2末  
現預金残高

\* 期末現預金残高はB/Sの「現金及び現金同等物」と整合  
 \*\* 建設仮勘定計上ベース  
 \*\*\* 「短期借入金及びコマーシャル・ペーパーの増減額」を含む

FY24Q3末  
現預金残高

# フリー・キャッシュ・フロー実績：939億円（前年同期比 +558）



対前年比	+261	+78	-54	+245	+531	-50	+77	+558
------	------	-----	-----	------	------	-----	-----	------

設備投資は建設仮勘定計上ベース

## 為替感応度

1円の円安に対する年間影響額（フロー）

（億円）

	USD	EUR	中国元
売上収益	25	11	39
調整後営業利益	1	5	23

1円の円安に対する影響額（ストック）

	USD	EUR	中国元
調整後営業利益	-2.5	-0.6	-2.0

